

さくらほっと NEWS

vol.46
平成30年冬号



名市大消化器外科は、
次世代の先進的手術を
提供します。…2

消化器外科のメンバー

名市大病院のチカラ Vol.14 ……………3

「がんゲノム外来」(がんゲノム医療専門外来)開設のお知らせ ……4
慢性の痛みに対する集学的治療の一員 臨床心理士
市民公開講座・セミナーのご案内

地域医療機関と名古屋市立大学病院の地域医療連携



* 国の方針に基づき、地域医療連携を推進しています

名市大消化器外科は、 次世代の先進的手術を提供します。

名市大病院には、2018年1月から手術支援ロボットda Vinciの最新機種であるXiを導入しています。ロボット手術といっても、ロボットが勝手に手術を行うわけではなく、あくまで医師が操作し手術を行います。外科医の眼の代わりとして3D内視鏡、手の代わりとして4本のアームを装備したロボットを遠隔操作しながら手術を行います。これまでの内視鏡手術と大きく異なる点として、標準画面が3Dであり手術器具が関節を持っているため、より高度かつ複雑な操作を行うことができます。

胃癌に対するロボット支援手術

2018年3月より胃癌に対してロボット支援手術を行っています。主に手術を担当する瀧口教授はこれまでに多くのロボット支援手術を行ってきました。また、高難度と言われる進行胃癌に対する腹腔鏡下手術を数多く経験しており、今までに培った経験とロボットの技術を融合することで、より質の高い手術を行っています。



直腸癌に対するロボット支援手術

2018年8月より直腸癌に対してロボット支援手術を行っています。直腸癌の手術は、骨盤という狭く血管や神経の入り乱れた場所で行うため難易度の高い手術の一つです。逆にそのような狭い場所での手術はロボットが得意とするところです。ロボットの関節機能や繊細な動き、精緻な画像を活用し、より質の高い手術を行っています。

名市大消化器外科は、ロボット支援手術によって多くの患者さんに安全で精緻な次世代の手術を提供しています。ご不明な点があれば、お気軽にご相談下さい。

名市大病院のチカラ Vol.14

小児外科

小児の外科的な病気のスペシャリスト



小児外科
近藤部長

小児外科とは、文字通り小児の外科的疾患を手術で治療する診療科です。名市大病院では小児医療が昔から柱の一つで、小児外科も早くから立ち上がっていました。

その診療範囲の一つに新生児外科があります。私たちは、手術を必要とする赤ちゃんに対して、例えば手術で肛門の形を作ったり修復したりして、不十分な肛門の機能を最大限に生かせるように日々努力しています。

対象疾患は多岐に渡っており、頸部・胸部・腹部のうち心臓・大血管・尿路を除くあらゆる部位・臓器の先天性外科的疾患を治療します。

またそけいヘルニアや腹膜炎などは新生児期以降から、へそヘルニアや腸重積症、虫垂炎については乳幼児期以降から発症することがあります。

小児の固形がんは小児外科も診療に加わりますが、血液のがんにおいても抗腫瘍薬治療中の虫垂

炎や消化管穿孔があります。心臓外科手術後には、血流不足から腸切除が必要なこともあります。

また胸の左右の真ん中でおなかとの境界あたりにくぼみがある漏斗胸(ろうときょう)という疾患がありますが、我々の小児漏斗胸の治療の特色として、異物を用いず1度の手術だけを行う「肋骨骨ブリッジ法」があります。術直後の胸壁の固定が十分で、なおかつ術後長期の矯正効果も良好です。この手術は漏斗胸患者さんの全員に行うものではありません。できることなら手術をしなくてもよくなることを願いながら診療しています。詳細はホームページをご覧ください。



図1：正常胸郭

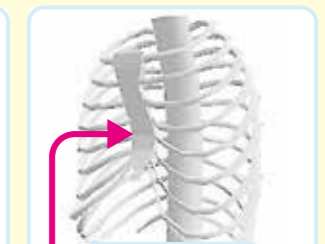


図2：漏斗胸胸郭

漏斗胸の患者さん(図2)は前胸部が凹んでいます

こころの医療センター

心理・社会的な治療への取り組み—薬に頼らない治療を目指して—



こころの医療センター
明智センター長

うつ病や不安症などの病気や、慢性的なめまいや身体の痛みなどは、薬による治療が効果的でない場合があります。これらの病気では、薬以外の治療法、すなわち心理的あるいは社会的な側面からの治療法が有効であることを多くの研究が示しています。

私たちこころの医療センターでは、様々な心理・社会的な治療法の実践と研究に取り組んでいます。慢性めまいや慢性疼痛、難治性パニック症に対しては、最新の認知行動療法の一つであるアクセプタンス&コミットメント・セラピー(ACT)の臨床応用を進めています。また、国立精神・神経医療研究センターと協力して心的外傷後ストレス障害(PTSD)に対する持続エクスポージャー療法にも取り組んでいます。さらに、うつ病に対する対人関係療法も、大学院生を中心に意欲的に臨床実践や研究を進めており、

対人関係療法に関しては、近隣の医療機関にご協力をいただき、対象となる患者さんをご紹介いただいております。

これらは、すべて国内で施行できる医療機関が限られている治療法であり、今後も治療効果の向上に取り組んでまいります。



後列左から渡辺医師、永田医師、近藤医師、桑原医師、伊井医師、高島医師
前列左から酒井臨床心理士、今井医師、小川医師、利重医師、木下医師

「がんゲノム外来」(がんゲノム医療専門外来)開設のお知らせ



がんゲノム医療ワーキンググループ長
遠山竜也(乳腺外科)

名古屋市立大学病院は厚生労働省より「がんゲノム医療連携病院」に選定され、2018年10月より「がんゲノム外来」を新たに開設致しました。「がんゲノム外来」とは「がんゲノム医療」を希望される患者さんを対象とした、診療科の枠組みを超えた専門外来です。

「がんゲノム医療」とは、患者さん一人ひとりのがんの原因を明らかにし、より適した治療薬を選択する次世代のがん治療です。異なるがん種でも同じ遺伝子に変異がある場合や、同じ分子標的薬が有効な場合があることが最近わかってきました。このような状況のなか、患者さんのがんに関する遺伝子を1回の検査で網羅的に解析し、抗がん剤の選択に役立てる遺伝子検査「NCCオンコパネル検査」が本年4月より先進医療Bとして開始されました。この遺伝子検査は、がんに関連する114個の遺伝子変異と12個の融合遺伝子変異を1回の検査で調べることができます。

名古屋市立大学病院では「NCCオンコパネル検査」以外にも、「OncoPrime(オンコプライム)検査」などの「がんゲノム医療」をスムーズに行えるような体制を整えましたので、ご利用頂けたら幸いです。詳しくは当院ウェブサイト「がんゲノム外来」のページをご覧ください。どうぞよろしくお願い申し上げます。

慢性の痛みに対する集学的治療の一員 臨床心理士

慢性の痛み(3ヶ月以上続く痛み)には、ケガや神経の働きに加えて、生活や運動の習慣、ゆううつな気持ちや不安感、職場や家庭でのストレスなどが関係することが、最近の医学研究で分かってきました。そのため、慢性の痛みに対しては、多角的な側面から評価を行い、複数の治療法を組み合わせしていく(集学的治療)ことが重要です。当院のいたみセンターでは、麻酔科医、リハビリ医、精神科医、理学療法士、臨床心理士、看護師によるチームで診療にあたっています。その中で臨床心理士は、患者さんの心理・社会面や生活習慣を中心に状況を伺い、慢性の痛みに影響を与えている要因や、痛みによって生じている悪循環を探ります。また、認知行動療法などの心理療法を通して、患者さんが自らの力で、痛みにとらわれず、生活をより豊かにする生活習慣を取り戻していけるよう支援しています。なお、当院では、いたみセンター以外にも、緩和ケア部、こころの医療センターなどにおいて、臨床心理士が各チームの一員として働いています。



酒井美枝 臨床心理士



いたみセンターでは、慢性の痛みを抱える患者さんを対象に、グループで心理療法を実施しています。(写真は模擬風景)

市民公開講座・セミナーのご案内

●市民公開講座

日付	時間	会場	定員	講演者	内容	問い合わせ先
12月8日(土)	13:30~15:00	大ホール (病棟・中央診療棟3階)	300名	名古屋市健康福祉局 地域ケア推進課 主査 福田嘉彦 国立長寿医療研究センター 高齢者総合診療科 医長 佐竹昭介	健康寿命を延ばす方法を学びませんか?	名古屋市立大学病院 地域包括ケア推進・研究センター TEL 052-853-8537
12月15日(土)	13:30~15:30			名古屋市立大学病院 循環器内科 溝口達也 名古屋市立東部医療センター 循環器内科 山下純世	高血圧の管理と健康長寿	医学研究科 心臓・腎高血圧内科学 TEL 052-853-8221

●患者情報ライブラリーセミナー

日付	時間	会場	定員	講演者	内容	問い合わせ先
12月11日(火)	14:00~14:30	患者情報ライブラリー (病棟・中央診療棟B1階)	30人程度 (先着順)	形成外科 助教 佐藤秀吉	「乳房再建」人工物と自家組織 自然な形態を目指して	患者情報ライブラリー 052-851-5511 (平日9時00分~16時00分)

※次回(2月開催)については当院ホームページ上でお知らせします。

全て事前申込不要(先着順)・参加費無料ですので、どうぞお気軽にご参加ください。